

京都文教大学人間学研究所  
共同研究プロジェクト「物語と現代社会」  
2006年度第4回研究会

## テーマ： 非行少年との神話ドラマ・ワーク

講演： アラン・グッゲンビュール

ユング派分析家  
IKM(コンフリクト対応・神話ドラマ研究所)所長

日時： 11月8日(水) 13:00~14:30

会場： 常照館 J302教室



**予約不要 参加費無料**

<ご紹介> 演者のアラン・グッゲンビュール博士はユング派分析家であり、非行少年の矯正教育や様々な葛藤(コンフリクト)のマネージメントに、独自のイメージワーク、神話ドラマ(Mythodrama)を考案し、効果を上げてこられました。現在、IKM(Institute for conflict management and mythodrama, コンフリクト対応・神話ドラマ研究所)所長として、このイメージワークの研究、実践をリードしておられます。

著書には、『暴力の信じがたい誘惑ー子どもの攻撃性と野蛮との取り組みー』("The Incredible Fascination of Violence: Dealing with Aggression and Brutality among Children" Spring, 1996), 『男性、力、神話ー男性アイデンティティの探求ー』("Men, Power, and Myths: The Quests for Male Identity" Continuum, 1997)などがあります。

今回は博士の実践のなかから、非行少年との神話ドラマワークの例を中心に、暴力やコンフリクトをともなう状況への取り組みについて、お話をうかがいます。